

# 学校関係者評価 報告書

対象期間

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

学校法人鶴学園

**HITP** 広島工業大学専門学校

# 目 次

1. 評価実施の概要	1
2. 評価結果	
総 評	2
(1) 教育理念・目標・人材育成像	4
(2) 学校運営	4
(3) 教育活動	5
(4) 学修成果	6
(5) 学生支援	7
(6) 教育環境	7
(7) 学生の受入れ募集	8
(8) 財務	8
(9) 法令等の遵守	9
(10) 社会貢献・地域貢献	9
(11) 国際交流	9

# 広島工業大学専門学校 平成 28 年度 評価報告書

平成 30 年 3 月 7 日

## 1. 評価実施の概要

評価目的：「広島工業大学専門学校 平成 28 年度 自己評価表」を対象とした学校関係者  
評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：第 1 回目 平成 29 年 9 月 6 日（火）15:00～17:30

第 2 回目 平成 30 年 3 月 7 日（水）14:00～17:30

実施場所：広島工業大学専門学校

### 学校関係者評価委員会の出欠状況

\*欠席した委員には、後日、学校が自己評価結果や活動記録等の資料を持参して説明を行い、意見聴取と評価がなされた。

種別	所 属	役職名	氏 名	第 1 回
高校	学校法人広陵学園 広陵高等学校	教 頭	国 貞 和 彦	出席
業界団体	一般社団法人 広島県情報産業協会	会 長	高 羽 威	出席
業界団体	公益財団法人 日本照明家協会	理 事	木 谷 幸 江	出席
企業	テンパール工業株式会社	取締役技術本部長	山 本 博	出席
企業・地域	河井建設工業株式会社	総務部課長	宮 内 秀 実	出席
卒業生	広島工業大学専門学校同窓会	会 長	大 島 晋 也	出席
本校	広島工業大学専門学校	校 長	玉 野 和 保	出席
	広島工業大学専門学校	副校長	鶴 登美子	出席
	広島工業大学専門学校	教育部長	吉 本 恒 雄	出席
	広島工業大学専門学校	教育部	竹 田 睦	出席

### 評価の方法

平成 29 年 9 月 6 日に開催された学校関係者評価委員会において、各委員に「平成 28 年度  
運営報告書」「平成 28 年度自己評価」を配布し、また、教育活動に関する詳細なデータをま  
とめた「平成 28 年度教育レポート」を参考資料として示し、説明を行った。

説明においては、主に「平成 28 年度運営報告」を使い、「運営計画」「評価尺度」「指標」  
「達成度」「評価と改善」並びに「平成 29 年度運営計画の見直し」の各項目により、PDC

Aに基づいて、主にはS項目（最重点目標）を取り上げて説明を行った。

会議後、評価表を各委員に送付し、評価項目ごとに1（不適切）2（やや不適切）3（ほぼ適切）4（適切）に評価してもらい、評価表を返送していただいた。その平均値をとったものを最終評価とし、また意見の記述についても取りまとめた。その結果は以下のとおりである。

## 2. 評価結果

### 総評

学校の教育理念に基づき教育目的・育成人材像が具体的に規定されており、各学科の教育目標・育成人材像は産業界のニーズを踏まえて定められている。

「鶴学園中長期運営大綱」に基づいて年間運営計画が策定され、適切な運営組織と意思決定が行われている。また、運営報告についても、PDCAサイクルに基づいて具体的な指標のもとに評価や報告がなされている。人事、給与等に関する規程等は適切に整備され、運用されている。教育活動に対する情報公開については、ホームページ等により適切に行われている。この度、文部科学省により「職業実践専門課程」の情報公開に関する「別紙様式4」の改訂が告示され、これに沿った各欄の更新の頻度も妥当である。

「学習成果プレゼン大会」を毎年実施しているが、これは、2年間ないしは3年間の中で、各学科代表の学生が、何をどのように学んだかを、連携企業、保護者、高校教諭、新入生等の前でプレゼンを行うものであり、広く外部へ向けて教育情報公開を行う有益な手段の一つとなっている。また今日、企業等から求められている問題・課題解決力およびプレゼンテーション能力を養成する貴重な機会ともなっている。

教育課程は、教育理念に基づき編成・実施されており、各学科の育成人材像・教育目標を踏まえた体系的なカリキュラム運営が行われている。そこにおいては、企業連携に基づく実践的な職業教育を重視したカリキュラムが用意されており、地域産業界や教育課程編成委員会からの意見聴取によるニーズの把握と、授業評価や研究授業の結果を踏まえたカリキュラムの編成と改善が図られている。また、産学連携によるインターンシップについては、職場体験型から問題・課題解決型へと内容を充実させることに取り組んでいるが、次年度以降においては、企業と学生の双方への授業アンケートを実施し、職業教育に関する外部からの意見を反映させるとともに、学習成果を踏まえたより充実した内容に改善することとしている。

就職率向上のための就職指導は、授業等を利用して、一年次生から実施されており、学生の就職活動状況の把握に基づき全校的な就職対策が行われている。また、資格取得については、学科ごとに重点目標を定め、学生の学力や意欲の差異に応じた受験指導やeラーニング等の取組みが展開されている。

退学率の低減については、出席率・学習状況を含めた全ての学生情報を毎月の出席会議で全校的共有化を図っており、問題の予兆がある学生には、保護者等とも連携して早期に対応策が取れるよう努めている。

今年度の退学者数は、これまで減少傾向にあったが、本年度は、20名（4.33%：昨年度より1.23%増）で昨年度より6名多くなっている。主な原因として、安易な動機による入学や、学ぶ目的意識が希薄な学生も見られ、数字だけでは退学抑止についての指導の成果が測れないという側面がある。外部機関による講習・研修会参加や外部講師等による指導等により適切な対応が取れるよう教員の資質向上や指導力研修等に力を注ぐことが望まれる。

進路については、学園内編入学推薦制度により、広島工業大学への進学が円滑に行われており、また、「英語」「数学」「物理」等の一般教養科目を受講させることで、編入後の単位取得において負担軽減を図る支援により、昨年度より8名増の13名が編入学をしている。就職については、チューターとキャリアサポートセンターが連携して、早い時期から個々の学生に対応した様々な就職支援を実施することで、就職内定率は昨年度を0.5%上回り、99.3%となっている。（就職内定者150名／就職希望者数151名）

教育目的を達成するため、専修学校設置基準で求められている校地、校舎、及び施設・設備については、年次計画に基づき適切に整備され、有効に活用している。特にICT教育には力を入れており、学生全員にメールアドレスを配布し、インターネットや電子メールの活用促進を図っている。また、ワードやエクセルなどの情報リテラシー教育をすべての学科で展開するとともに、e-Learningも利用して資格試験対策にも力を注いでいる。近年のICTを活用したアクティブラーニング教育の推進のために、ネットワーク環境を更新し、各学科に電子黒板も設置し利活用への整備が図られているとともに、無線LANの導入も計画されている。プレゼンテーション能力を向上させるために、100インチのディスプレイ2台、40インチディスプレイ2台、演者を映すカメラ及び音響機器を設置している。

本校の各学科には、他校にほとんどない専門の設備が整備され、より実践的な専門の知識、技術、技能の習得が図られている。とくに土木工学科において、これからの情報化施工（i-Construction）で有望視されている無人航空機（Unmanned Aerial Vehicle: UAV 俗称 ドローン）や航行シミュレータを導入し、新たな専門教育への展開を図っている。

以前に学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会から指摘のあった「コミュニケーション力不足」と関連していると思われる「書く力」の養成について、平成26年度から授業科目「文章技術」として全学科導入に半期の授業科目として実施している。これにより学生の書く力への増進も見られ、就職試験でのエントリーシート作成や資格取得対策等への寄与もあるが、一方で就職試験対策や就職後の文書業務への能力向上も必要で、本年度からSPI試験対策も実施されている。この導入による効果の検証も急がれる。

学内外の施設・設備については、学校法人鶴学園の共有施設や広島工業大学の実習施設等を機械工学科や土木工学科等で有効に活用し、適切な教育環境整備が図られている。

海外研修については、シンガポールとベトナムにそれぞれ姉妹校があり、シンガポール研修旅行へ10名、ベトナム研修旅行へは3名の学生が参加した。次年度はさらに多くの学生の参加が望まれるところである。

学生募集活動については、ホームページを中心して教育成果等を広く公開しており、その内容については、正確を記している。オープンキャンパスでは、高校生や保護者に対して、教育方針や各学科の特色、教育内容の説明が丁寧に行われている。

財務状況は、学校法人鶴学園としての財務三表を中心とする情報がホームページで公開されており、その中に当該専門学校の財務情報も含まれている。平成28年度においては、消費収支・資金収支とも黒字化が図られており、中長期的に見た財務基盤は安定している。

法令等の遵守については、学校教育法及び専修学校設置基準等の関係法令と学内規程に則って適切な学校運営と教育活動が行われている。また、個人情報保護法についても適切に対応している。

社会貢献については、学校をあげて学生・教職員が共に積極的なボランティア活動に取り組んでいる。特に国際交流において、参加学生が現地のボランティア活動に参加しており、教育方針の具現化にも努められている。

留学生受入については、製造業関連の企業が多く進出しているベトナムを対象として、現地にある

日本語学校と連携し、優秀な学生の入学促進を図っている。また、受入業務や在籍管理等の手続きについては、国際交流センターの担当職員が適切に行っている。平成 28 年度は、4 名の留学生（中国 1 名・ベトナム 3 名）が指定校推薦で合格し、平成 29 年 4 月に入学した。次年度以降も、途切れることなく留学生の入学促進を戦略的に取組むことが望まれる。

総じて、同校は、「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開し、社会の期待に応える中堅技術者を育成する」ことを教育目標とし、企業等からの意見やニーズを教育目標・育成人材像に反映させ、また実際にカリキュラム編成の改善を行う等に活かしている。出席状況は 1 コマごとに取られ、登校していない学生で欠席の連絡がない者については、その日のうちにチューターが学生本人に連絡を入れている。また、欠席が続く場合は保護者への連絡や相談をしている。これらにより、全学生の平成 28 年度平均出席率は、昨年度より 1.6% 向上し 89.2% となっており目標の 90% に概ね達しているが、今後もきめ細やかな指導を継続することとしている。

学生募集については、昨年度より 12 名増の 219 名が建築士専攻科は 16 名増の 38 名が入学した。

高校生への就職環境が好調のためか、電気、情報系の入学者が前年度より減となっている。次年度以降は、綿密な広報戦略を基に更なる募集強化が必要である。

## (1) 教育理念・目標・育成人材像

① 評価結果：適切である。＜4 段階評価 委員平均ポイント 3.8＞

### ② 理由

- ・教育理念は、同専門学校の設置母体である学校法人鶴学園の建学の精神「教育は愛なり」、教育方針「常に神とともに歩み社会に奉仕する」という建学の精神に基づいており、それらの教育理念を具現化するための学校の教育目標を「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開し、社会の期待に応える中堅技術者を育成する」と定めている。
- ・各学科の教育目標と育成人材像は、学校の教育目標を踏まえて学科の専門分野の特性と産業界の求める人材ニーズなどに対応するよう定められている。
- ・土木工学科においては、これからの情報化施工（i-Construction）で有望視されている無人航空機（Unmanned Aerial Vehicle: UAV 俗称 ドローン）や航行シミュレータを導入し、教育目標に新たな専門教育への展開を図っている。
- ・平成 26 年度より教育課程編成委員会並びに学校関係者評価委員会の委員の意見を受け、全学科において必須科目「文章技術（半期：2 単位）」を開講させている。

### ③ 委員からの意見

- ・中長期経営計画に基づいて教育の質保証・向上を目指すための基本となるディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）、アドミッションポリシー（AP）については、計画どおり進められており評価できる。今後も向上に向けて取り組んで欲しい。

## (2) 学校運営

① 評価結果：適切である。＜4 段階評価 委員平均ポイント 3.6＞

### ② 理由

- ・鶴学園中長期運営大綱(平成 28 年度から平成 32 年度)に基づいて専門学校の年間運営計画が策定され PDCA サイクルに基づいた目標管理が実施されており、適切な運営組織と意思決定が行われている。また、人事、給与等に関する規程等は適切に整備され、運用されている。
- ・教育活動に対する情報公開については、主にホームページにより適切に行われており、文部科学省の告示による「別紙様式 4」の記載項目改訂にも対応しており、更新の頻度も妥当である。
- ・校長は、公務の円滑な執行も含め、運営計画以外の課題に関する委員会を設置する等、諸課題への取り組みについての校長のリーダーシップへの仕組みが図られている。
- ・業務の円滑な推進と効率化を図るためガントチャートを作成し、関連部署で情報共有を行いながら業務を遂行している。

#### ④ 委員からの意見

- ・学校運営を円滑に行うために、教職員の意識統一やロイヤリティの向上についての具体的な取組みがあれば示して欲しい。

### (3) 教育活動

① 評価結果：ほぼ適切である。〈 4 段階評価 委員平均ポイント 3.1 〉

#### ② 理由

- ・教育理念に基づく教育課程が編成・実施されており、各学科の育成人材像・教育目標を踏まえた体系的なカリキュラム運営が行われている。
- ・実践的な職業教育を重視したカリキュラムが用意されており、地域産業界からの意見聴取によるニーズの把握と、企業・学生双方への授業アンケートや授業評価や研究授業の結果を踏まえた教育課程の編成と改善を行うとともに、教育方法の見直しが図られている。
- ・企業勤務経験者や有資格者を必要に応じ教員として採用することにより、関連学科の育成人材・教育目標の達成を促すとともに、産学連携によるインターンシップの推進と充実を図っている。
- ・各種資格取得のための指導体制は学生への個別対応が行われており、そのためのカリキュラムはカリキュラムマップとして全学的に体系的に編成されている。
- ・職員の能力開発については、学校法人鶴学園全体での職員研修会が定期的に行われており、専門学校の職員も参加をしている。
- ・課題解決型学習推進のため、企業派遣講師と密接な連携を取りながら、学生には、前期に企業から出された課題に取り組みせ、その後に中間評価を行い、また後期の終わりには、その成果を発表させ、企業連携の基に最終評価を行っている。今後は、さらに密度の濃い企業連携と学習内容の充実が求められている。

#### ③ 委員からの意見

- ・土木工学科におけるドローン等の導入も含めたこれからの新しい技術への取組みに期待したい。またドローン飛行ルールや適用範囲等が頻繁に変更されている、教育において、こ

のような動向も視野に入れて今後取り組んで欲しい。

- ・ 建築学科は、二級建築士資格取得に特化したカリキュラムに特化せざるを得ないとは思いますが、たとえば「リフォーム」に関しては企業連携の可能性はあるのではないかと？
- ・ 情報系学科においては、現在、システム、ビジネス、デザインの 3 コースでカリキュラムが構成されているが、もっと的を絞った構成が要るのではないかと？
- ・ 情報に関する知識や技術は、机上だけでなく実務も大切である。現場を見て触れて知恵を出す取り組みに今後も力を入れて欲しい。
- ・ 舞台照明業界においても、安全への対策が求められてきている。安全教育を全学科で取り組もうとされていることはとても良いことだと思う。
- ・ 現在、社会から問題・課題解決力の強化が求められているが、企業連携による取り組みも含めて今後、具体的にどのように体系的に取り組まれるか？ このような各学科での取り組みを学校としての特色として利用することが大事ではないかと。
- ・ 業界等との連携において優れた教員の確保へのマネジメントは、今後の対応策を明確にする必要がある。
- ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価への取り組みを明確にしておく必要がある。

#### (4) 学修成果

① 評価結果：概ね適切である。＜ 4 段階評価 委員平均ポイント 2.9 ＞

##### ② 理由

- ・ 就職率向上のための就職指導が授業等を利用して、一年次生からキャリアサポートセンターとチューターとの連携のもとに実施されており、学生の就職活動状況の把握に基づき全校的な就職対策が行われている。
- ・ 学科ごとに資格取得の重点目標を定め、学生の学力や意欲の差異に応じた受験指導を行っている。機械工学科では、普通旋盤作業の機械加工技能検定 2 級に 3 名が合格した。その他の重点資格として、基本情報技術者に 4 名、二級建築士に 17 名、インテリアコーディネータに 4 名、測量士補に 4 名が合格し、学科目標を上回ることができた。
- ・ 退学率の低減を目指し、授業の工夫や出席指導に十分な配慮がなされており、特に全ての学生情報を一元化した「学生情報交換システム」による情報の全校的共有化により学習指導と生活指導の充実を図っているが。退学者数は残念ながら、昨年度より 6 名増え 20 名 (4.33% : 昨年度より 1.23% 増) であった。原因が学生の私生活に基づいている点もあると思われるが、今後も学生一人ひとりの行動をよく観察し、問題があれば、直ちに保護者とも綿密に連絡を取ることで、できる限り改善に努めて欲しい。

##### ③ 委員からの意見

- ・ 平成 28 年度は 99.3% の就職内定率であり、就職率の向上に対する取り組みについては、適切に行われていると評価できる。
- ・ 新社員のコミュニケーション力が年を追うごとに低下していると感じることが多い。教育現場において様々な手段や方法により対応策を検討してもらいたい。

## (5) 学生支援

① 評価結果: ほぼ適切である。 < 4段階評価 委員平均ポイント 2.9 >

### ② 理由

- ・ 就職に関しては、チューターとキャリアサポートセンターが連携し、学生に対しての自己分析・自己PRへの取り組み指導や面接指導において、学生一人ひとりに個別に対応しており、適切な支援体制が整備されている。
- ・ 進学に関しては、広島工業大学への編入学推薦制度が設けられており、当該専門学校において「英語」「物理」「数学」等の一般教養科目を開講することにより、編入学後の単位取得において負担軽減を図っている。また、編入希望学生の学習意欲や意識の向上を図ることと、編入に対する不安を解消させるため、既に編入した学生との「情報交換会」を開催している。
- ・ 学生相談については、基本的には各チューターが当たるが、学科を超えた相談体制として4名の教職員をおき、「学生便覧」への掲載や顔写真入の「教職員の紹介」により、相談し易い体制を取っている。
- ・ 健康管理に関しては、保健室に看護師の有資格者が常駐し、学生の相談や応急処置に対応するとともに、掲示、メール、生き方講座を通じて適宜、健康維持と感染症に関して啓蒙している。
- ・ 女子学生に対しては、入学後の不安の解消を図るために、学友会と連携して、昨年度から入学前に女子会を開催し、好評を得ている。

### ③ 委員からの意見

- ・ 特になし

## (6) 教育環境

① 評価結果: ほぼ適切である。 < 4段階評価 委員平均ポイント 3.3 >

### ② 理由

- ・ 教育目的の達成を図るために必要な校地・校舎・施設設備などの教育環境は適切に整備、活用されている。
- ・ 土木工学科、機械工学科については学校法人鶴学園の共有研修施設や、広島工業大学の設備を活用し、当該専門学校だけではできない実習環境が提供できている。
- ・ インターンシップについては、情報・電気・機械・土木の学科において、就職先となる企業を中心として、積極的に就業体験をさせている。
- ・ 音響映像系学科においては、市内のコンサートホールを貸し切り、企業の専門技術者支援を受けながら、学生自らが企画し運営するコンサート実習を行うことで、より高度で実践的な技術教育ができるよう計らっている。
- ・ 海外研修旅行への参加を促進するため同窓会と連携し、同窓会より「グローバル人材育成支援金」を支給し、経費を一部支援している。

### ③ 委員からの意見

- ・ これからは国際的な場で活躍できる人材が求められている。海外の人と堂々と交渉できるような人材育成が必要ではないか？

- ・初等中等教育では ICT 活用による能動的雙方向教育が進んできている。本校もこれに対応できるように環境やソフトウェアの整備が急がれると思われる。
- ・産業界では AI や IoT に関する技術やビジネスが急速に進呈している。関係する学科においてこのような技術へ対応できるようカリキュラムの整備が必要ではないか。
- ・これからは“ベンチャーを起こせるぐらいの”実行力の強い学生の育成にも力を入れて欲しい。
- ・企業に入社後、学校生活とのギャップに悩む人がある。このためにインターンシップを通じた就業体験は効果的と思われる。学生が学校生活の間に全員就業体験ができるように配慮されることが望まれる。

## (7) 学生の受入れ募集

① 評価結果：適切である。＜ 4 段階評価 委員平均ポイント 3.5 ＞

### ② 理由

- ・学生募集活動において、ホームページを中心として、高校生や保護者等に情報提供している資格取得状況や就職内定等の教育成果は、根拠を示したものであり、的確であると思われる。
- ・ホームページの「学科ニュース」では、各学科における教育活動の取組みが紹介されており、分かりやすい内容となっている。2 週間に 1 回という更新頻度も適切である。
- ・教育方針及び各学科の特色、教育内容は、オープンキャンパス等に参加した生徒一人ひとりと、当該専門学校の教員が面談し、理解を得る取組みがなされている。—ミスマッチを防いでいる。
- ・保護者説明会においては、校長から保護者に対して指導内容・方法について詳細な説明を行っている。また、在校生が自らの学びや学生生活について話をし、保護者からの質問にも応える機会を作っている。

### ③ 委員からの意見

- ・学科の特色を明確にして、高校生や保護者。高校教員に魅力が伝わるよう一層の工夫が要るのではないか。

## (8) 財務

① 評価結果：ほぼ適切である。＜ 4 段階評価 委員平均ポイント 3.5 ＞

### ② 理由

- ・予算や収支計画は所定の手続きを経て承認・執行されており、財務については監事と公認会計士による会計監査が、学校法人会計基準等に基づいて適切に実施され、その結果は評議員会と理事会に報告されている。
- ・学校法人鶴学園として財務三表を中心とする情報がホームページで公開されており、その中に当該専門学校の財務情報も含まれている。

### ③ 委員からの意見

- ・特になし。

#### (9) 法令等の遵守

① 評価結果：適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.6＞

##### ② 理由

- ・ 学校教育法及び専修学校設置基準等の関係法令と学内規程に則って適切な学校運営と教育活動が行われている。
- ・ 個人情報保護の法令遵守に関する基本方針については、学生に配布する「学生便覧」への記載や学内掲示がなされ適切な対応がされている。

##### ④ 委員からの意見

- ・ 「コンプライアンス」を道徳面まで含めた社会規範や校内ルール等への順守まで広く捉えて対応されていることは評価できる。今後もこれに基づいて対応されることを期待している。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

① 評価結果：ほぼ適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.5＞

##### ② 理由

- ・ 鶴学園の教育方針である「常に神とともに歩み社会に奉仕する」を実践するために、様々なボランティア活動に学校をあげて取り組んでいる。学校行事の一環としてボランティア活動は年間の行事予定に組み込まれており定着していると言える。また、シンガポールとベトナムへの海外研修旅行においても、プログラムの中にボランティア活動を入れ、前年度と同様に障害児施設の訪問を実施した。

##### ③ 委員からの意見

- ・ 特になし

#### (11) 国際交流

① 評価結果：適切である。＜4段階評価 委員平均ポイント 3.8＞

##### ② 理由

- ・ ベトナムホーチミン市にある日本語学校1校、国内の日本語学校8校を本校の指定校とし、当該校長の推薦により優秀な留学生を受入れる仕組みができており、平成28年度に推薦された学生4名（中国1名・ベトナム3名）が、平成29年4月から入学することとなった。
- ・ 留学生の受入、在籍管理等においては、担当部署である「国際交流センター」の職員が適切な手続きを取っており、問題なく実施されている。
- ・ 留学生の学修・生活指導等については、チューターが責任を持って対応する他に、国際交流センターの職員も生活や悩み等について定期的に面談してヒヤリングを行い、相談しやすい体制を作っている。

##### ③ 委員からの意見

- ・ 特になし

以上